

つみき通信3月号

平成18年3月1日発行

つみき通信は、会員の皆さんがMLに書かれたことの抜粋です。皆さんの情報提供に感謝しております。

今回は、各定例会の話題と（会の主催ではありませんが）VBワークショップに参加された方の報告などを中心に掲載しました。

【つみきプログラム】

この度、資料保存庫に収録した「つみきプログラム」について説明しておきます。

これは以前に貸し出ししていた「モリスプログラム」に代わるものとして、前々から作ろうと思っていたのですが、なかなかまとまった時間が取れなくて、2年ほど足踏みしていました。

今回、年末から何度目かのチャレンジを行なって、2月初めまでの作業で、ようやく7割がた完成させたのですが、その後、再び仕事が詰まってきて、中断を余儀なくされています。

ですから、まだ未完成で作業途中のものなのですが、それでも皆さんがプログラムに詰まったときに参考になる程度のもは入っているように思いますので、この際アップすることにしました。

今後、徐々にバージョンアップしていきたいと思います。

このプログラムは、一応、2,3才で全く無発語からスタートするケース、要するにゼロからのスタートを念頭においています。一方、終わりごろのプログラムには、4,5才になってようやく取り組むべきものもあります。

つまり、2,3年のスパンで取り組むことを想定しているわけです。

課題は、簡単なものから難しいものまで、ほぼ一直線に並べてありますが、必ずしもこの順序で進まなければならない、ということはありません。

例えばある程度、言葉の指示を理解しているが、動作模倣は全くできない、というお子さんは、動作模倣より音声指示の方を先にしてもかまいません。

しかし途中のプログラムから始める場合でも、一度はそれ以前のプログラムに立ち返って、できるかどうか確認してみることをお勧めします。

年長になってからのスタートでも、ほとんどのプログラムはそのまま使えると思います。年齢にふさわしくないプログラムがあれば、適宜修正してご使用ください。

このつみきプログラムとつみき BOOK の関係ですが、基本的には同じです。ただつみき BOOK が課題のジャンル別に分けてあり、解説文が多いのに対して、つみきプログラムは、プログラムだけを取り出してあり、しかもジャンルに関わらず、初期のものから一直線に並べてあります。

プログラムのアイデアだけほしい、つみき BOOK は冗長で

読みきれない、という方にお勧めです。

同一のプログラムで、つみき BOOK とは別の方法を提案しているものもあります。1つのことを教えるのにも、方法はいくつかが考えられるので、どちらが正解、ということはありません。

まだまだプログラムを途中で追加していくつもりですので、通し番号もつけていません。至って読みづらいものですが、ご容赦願います。

このプログラムは、先ほど申しましたようにゼロからのスタートを念頭においているため、高機能のお子さんには物足りないだろうと思います。

その点は高機能のお子さんの療育に取り組みられてきた会員さんが、この穴を埋めてくださるような「わが家のプログラム集」を、将来、公開してくださることを期待しています。

< 藤坂 >

【携帯ML】

従来から、レター会員へのイベント連絡用に、携帯専用のMLを設けていたのですが、今後は、これを活用して、イベント情報だけでなく、メンバー相互の簡単な情報交換や相談にも使っていこうと思っています。私も参加します。

携帯ですので、字数制限はありますが、最近はかなり字数も増えていきますので、たいいていの相談は可能なのではないかと、思います。

レター会員だけでなく、このMLを受信されているメール会員さんでも、ご主人はPCが使えるが、奥様は使えない方、とか、いろんな理由で、携帯ML参加ご希望の方が、いらっしゃるのではないかと、思います。

またご家庭に来て下さっている学生セラピストさんが、PCを持っていないためにセラピスト会員になっていない、というご家庭もあるのではないかと、思います。

そう言う方でも登録させて頂きますので、事務局 gate@tsumiki.org まで携帯メールでお申し込み下さい。その際、必ず件名に「携帯ML申込」と明記して下さい。

最低 500 字以上、打ち込める携帯に限ります。1000 字未満だと、メールによっては全部は受信できないかと、思いますが、ご了承下さい。

< 藤坂 >

【朝のあいさつ】

今日の発達相談で、ある親御さんから、幼稚園での朝のあいさつについて相談を受けました。

そのお子さんは、「おはよう」と言われたら「おはよう」と返すことはできます。

しかし幼稚園の先生の中に、いつもお帰りの会を担当している人がいて、その先生を見ると、朝なのに「バイバイ」と言ってしまうそうです。

お母さんは「やっぱりイントラバーバルで教えるべきなんだし

ようか」とおっしゃったので、「なんでもかんでもイントラバーバルが万能、というわけではありませんよ」とお返事しました。

イントラバーバルというのは、言語刺激に対してそれと異なった言語反応を返すことです。

「ありがとう」と言われたら「いいえ」と返したり、「朝のご挨拶は？」と聞かれて「おはよう」というのはこれにあたります。

「おはよう」に対して「おはよう」と返すのは、エコー（エコーイック）と言って、言語刺激に対してそれと同じ言語反応を返すことです。

このお子さんは、「おはよう」と言われれば「おはよう」と返せるし、「朝のご挨拶は？」と聞かれて「おはよう」と答えることも、教えれば出来ると思います。

つまりエコーとイントラバーバルは比較的得意なのです。

では、お帰りの会の先生の顔を見ると、「バイバイ」と言ってしまうのは、これは何でしょうか。

これはタクトです。タクトというのは、非言語刺激（外界の物や出来事、情景）が誘発する言語反応です。

ここでは、お帰りの会の先生の顔、という非言語刺激が「バイバイ」という言語反応を誘発しているわけです。

しかしこのタクトは非言語刺激と言語反応が不適切に結びついています。これを正しい結びつきに直さなければなりません。

では正しい結びつきとは何か。それは「朝、登園してきた」という状況（非言語刺激）に「おはよう」という言語刺激を結びつけることです。

そのために、プロンプトとしてイントラバーバルを用いることは出来ます。つまり朝、登園してきたときに、最初は、「朝はなんて言うんだっけ？」と耳元でささやいて、「おはよう」と言わせるのです。

しかしこれはあくまでプロンプトですから、だんだんなくなしていかなければ行けません。

なくしていった、代りに、「朝、自分が園にやってきた」という状況を手がかりに、「おはよう」と自発させなければいけないのです。

やり方は、その場でのプロンプトと強化です。朝、お母さんが一緒に登園する際に、誰かに会ったら、すかさず「おはよう」と言ってやり、子どもにまねさせます。つまりエコーですね。そしてまねしたら、すぐにほめて、強化します。

お帰りの会の先生の前に来たときも、すかさず（子どもが「バイバイ」という前に）大きな声で「おはよう」と言ってやり、それをまねさせます。まねできたら、強化します。「バイバイ」と言ってしまったら、10mほど前に戻って、もう一度その先生のところに一緒に行き、またプロンプトして「バイバイ」と言わせるとよいでしょう。

このように、現場の状況を前にして、最初はエコーでプロンプトして「おはよう」という反応を引き出し、すかさず強化して行きます。そして徐々にプロンプトをフェーディングしていきます。

すると最初は、お母さんの「おはよう」という言語刺激を手が

かりに「おはよう」と言っていたのが、やがて朝の状況を弁別刺激として、「おはよう」と言うようになります。

このとき、プロンプトは「朝はなんて言うの？」「おはよう」というイントラバーバルではなくて、「おはよう」「おはよう」のエコーの方がいいと思います。より反応が確実だし、フェーディングしやすいからです。フェーディングとして徐々に言葉の最初だけを言うようにしたとき、「おは…」と「あさ…」のどちらがこどもの「おはよう」を引き出しやすいか、考えてみてください。

ただこれによって、「お帰りの会」の先生の前でも「おはよう」と言えるようになったら、今度はお帰りの時も「おはよう」と言ってしまう可能性があります。お帰りの時もそばに付いて、やはり「バイバイ」と言ってやって、エコーでプロンプトし、まねしたら強化しましょう。これを朝夕、繰り返します。

朝夕の機会だけではらちがあかないようなら、朝、登園のときの状況と、お帰りの会の状況を写真に撮らせてもらい、家庭で弁別するといいかもかもしれません。

< 藤坂 >

【並べること】

横浜のONです。

自閉っ子は玩具でも何でも並べることを好むことが多いですよ。

我が家のクリスマスプレゼントはキティちゃんのお家だったのですが、やはり、その中に含まれる数多くの小さな人形や家具類を、箱の見本の写真と寸分違わず並べて悦に入っていました。

しかし、それでは遊びに発展性が無いと思って、「お人形は動かして遊びましょう」と言いつつ、お庭でバーベキューをさせたり、スポンジと布切れで布団を作ってやったりして、いくつか遊びのパターンを仕込みました。

さて、先日、仕事をしながら聞くともなしに聞いていると、少しバリエーションが増えたようで、何やら遊んでいます。

「ほら、キティちゃん、早く起きなさい」

チラッと見ると、屋根に布団を干しています。

「いってきま～す」「いってらっしゃ～い」

どうやら、キティのパパが会社に出勤したようです。

続いて、キティたちも学校に登校するようです。

お隣のシルバニアファミリーの子供たちも登校して行きます。

自分の生活を人形たちに置き換えるというパターンを飲み込んだようで、けっこう感心してしまいました。

そのうち、学校と看做された場所に人形たちが集まって来ます。

「さあ、朝会が始まりますよ！」

ほほお、学校の日常も再現するのか…。

「みなさ～ん、並んでくださ～い」

やっぱり並べるんかい！！！！

そっと見に行ってみると、人形たちはマトリックス状に美しく整列していました。

三つ子の魂百まで？ 恐るべし自閉っ子…。

< ON >

【 Re:並べること】

ONさん

ご無沙汰しております、横浜のFJです。

お人形さんでのごっこ遊びがいろいろと発展していて、素晴らしいですね！うちの子もそれくらいバリエーションが増えてくれるとうれしいんですが。。

うちのこども毎日毎日えんえんと並べています。

パンが大好きなので、パンが載っている本は全て、(図鑑やしまじろうや絵本その他)パンが載っているページを広げて畳の上にズラーっとならべています。

別のゾーンには、木の実の載っている本(今の季節によくそのへんで見かける小さい赤い実、せんりょうとかヒイラギとか)をやはり広げて、ズラーっ一直線。

そしてテーブルの上には飛行機と電車とバスが縦列駐車。こういうのってさえぎったほうがいいんでしょうか、それとも好きにやらせておいていいものでしょうか。。。

< FJ >

【 Re:並べること】

ONさん、FJさん

お子さんたちの様子、楽しく読ませていただきました。

> こういうのってさえぎったほうがいいんでしょうか、それとも

> 好きにやらせておいていいものでしょうか。。。

息子も、並べるのが大好きですので、私も知りたいです。

息子も並べるのが大好きで、5歳頃までは、自分が持っているありとあらゆるミニカーを出しては、一列に並べていました。

また、プラレールを与えたところ、ひたすらトーマスやらジェームスやらをつなげて、全長1メートル以上を連結して、手で動かしていました。

小さい輪だとはじめと終わりがくっつきそうで、まるで自分のしっぽをくわえようとしている蛇のようでした。

そとでは、縁石の上をひたすら歩きたがったり、駐車場のラインを忠実になぞって歩いたり、いまだに、駅など公共の場所では、着色された点字ブロックの上を忠実に歩きたがります。

現在では、ミニカーを並べることは無くなったのですが、トーマスは相変わらずです。

最近加わったことは、並べるのではないのですが、定規を使って字を書くようになりました。

そこまで直線が好きか！。

確かに模様として見るときれいなのですが、そんな手間をかけてまで。。

> 三つ子の魂百まで？ 恐るべし自閉っ子...

実感しております。

ところで、先週の土曜日、日本自閉症協会群馬支部主催の講演会に参加してきました。

今年度は、自閉症(高機能タイプ)支援連続セミナーとして、全5回、毎回講師を変えて行っていますが、その4回目です。今回の講師は、Kさん(横浜市中部地域療育センター)、

優しい女性の方でした。お話が上手で、私は裏方として照明と音響を担当していたため、一部を聞き逃してしまったのが残念でした。

その話の中で、自閉症児の世界をちょっと体感しようと言うことで、「紙を丸めて筒にして、それを通して周りを見る」ことをしました。

言われるとおり、紙で筒をつくり近くの人や床等を見てみました。

私は最前列に座っていたのですが、床を見て真っ先に目に入ったのはプロジェクタから伸びるコードでした。壁際のコンセントから舞台前の中央まで、延々と電源コードが這っているその一部が目に入ったのですが、思わずコードに沿って視線を動かしました。周りが見えないので、ラインになっているものは、ついそれに沿って視線を動かしたくなるのです。そして、そのようにしたとき心地よいと感じました。

息子のライン好きのことが少し分かったように思いました。また、同じようにして近くの人が手に持っているものを見ると、物だけが見えて持っている人が視野に入らなくなります。そうすると、物そのものへの興味が強くなるのですが、人への関心が薄れます。

息子の感覚はこれに近いのかなと思いました。

並べるのとは違うかもしれませんが、息子のライン好きに通じるものかなと、ちょっぴり息子の世界を実感したように思いました。

興味を持たれた方がいらっしゃいましたら、お試し下さい。

< UC >

【 Re3:並べること】

横浜のONです。

FJさん、UCさん、

こちらこそ、ご無沙汰しています。

並べることを禁止すべきかどうかは、色々な考え方があると思います。

お子さんのタイプや、現時点での課題レベルなどにもよりますし...

私としては、ほどほどに認めてやりたいと思っています。

何しろ、私自身も並べるのが大好きですから(笑)。

本棚の本の並び順が狂っていると、ついつい直してしまえずし、サイフの中のお札の向きや金種が揃っていないと、何だか落ち着きません。

パソコンだって、アイコンはキッチリと整列させています。

とは言え、並べることが強いこだわりになるのは困ります。

片付けることを拒否したり、1センチずれたからといって癇癇を起こすようでは、日常生活に支障を来してしまいます。

私だって忙しいときは本棚の片付けは後回しにしますし、レジが混んでいれば、お札を揃えるのは帰宅後にします。

ただ、お子さんの認知レベルによっては、「時と場合による」という対応は難しいでしょう。

わかりやすくしてあげるための工夫が必要です。

スモールステップで、例えば、「寝るときに片付ける」とか、「家では良いが、外ではやらない」など、その子がクリアでき

そんな課題から取り入れるのが良いかと思います。
我が家の人形遊びも、一朝一夕に成ったというわけではありません。
シルバニアを買い与えたころから取り組みましたから、かれこれ2年くらい経ったでしょうか。
それなりに形になって来たのは、ここ数ヶ月の事です。
一時、いくら遊びを教えても、やはりいつも同じに並べてばかりいるので、「動かさないなら遊ばんでよしい！」と、何ヶ月も箱に入れたままにしていた時代もありました。
正直、私は男なので人形遊びを教えるのは難しいです。
ウルトラマンと怪獣を戦わせるとか、乗り物の遊びのバリエーションだったら自信があるのですが、やっぱり女の子の遊びは勝手が違います。
その点、家内は芸達者なので、さも自分が楽しそうに色々なパターンを実演します。
すると、娘も同じことを繰り返して遊びます。
もちろん、最初のうちは自分でバリエーションは作れません。
ただ、こうして沢山のパターンを教えることが、後々の遊びの基礎になるような気がします。
「動かすと楽しい」という感覚も自然に身に付くとは限らないので、こちらが誘導して形成してやらねばならないでしょう。
転機となったのは「メルちゃん病院」でした。
病院というのは目的が明確な場所ですし、かなり構造化されているので、
子供にとって、わかりやすいのかもしれませんが。
そして何より、娘は病院が大好きです。
家中の縫い包みや人形を総動員して、医者、看護婦、患者の役割分担をします。
「次の方」「どこが痛いですか？」というパターンで、症状を変えていけば、かなりのバリエーションが作れます。
ケガなら絆創膏を貼ったり包帯を巻いてやりますが、患部の違いによるバリエーションも可能です。
内科的な症状でも腹痛、頭痛、風邪などがあります。
処置としては注射や薬の処方などがありますね。
ちょうどこの頃、ボランティアの遊び相手(大人)に良く来てもらっていたので、それも良かったのだと思います。
やはり親だと煮詰まってしまうから。
それでもまだ、娘の遊びを見ていると不自然な点が多く残っています。
それに、他の子供と一緒に遊ぶことが未だにできません。
まあ、気長に、地道に積み重ねていくしかなさそうです。
> 今回の講師は、Kさん(横浜市中部地域療育センター)
K先生ですか、懐かしいですねえ。
ウチの娘も前に半年くらいグループ指導を受けました。
といっても、実際にやるのは助手の方々なので、K先生と接する機会はあまり多くありませんでしたが...
ときどきけっこう辛辣なことをポロっと漏らすので、そんな日は帰宅後に家内がブーブー言っていましたっけ(爆)。
ちなみに、私もラインを追うのは好きです。

電車に乗ってボンヤリしているときなど、ふと気が付くと、隣の線路や架線を目で追っています。
これは感覚的な心地良さなので、説明し難いものがあります。
今風に言えば「癒される」という感じでしょうか...。
こうして、このメールを書いている隣の部屋で、娘はまたキティちゃんのお家で遊んでいます。
「遅刻しちゃうわよ、早く行ってらっしゃい」
どうやら、また学校で整列するようです(苦笑)。
昨日、メールを書いた後で気が付いたのですが、最近はお前のように1列に並べることが減りました。
2列だったり、3列だったり、ときには4列だったりします。
これは空間認知のレベルが上がったせいなのかもしれませんが、以前に取り組んだ座標取りの課題の副産物かもしれません。
ただ、どうやら真四角に並べる傾向が強いようなので、それが新たなこだわりにならないければ良いのですが...。
皆さんのお子さんの様子、また聞かせて頂ければ嬉しいです。

< ON >

【 Re:並べること】
ONさま、ご無沙汰しています。
MMです。
「並べること」のメール、とても興味深く、またとても納得しながらといいましょうか、ふむふむ、なるほど~、、、と思いつつながら、楽しく読ませていただきました。
並べることとはちょっと違うのですが、ラインをぼんやりと追うのが好きだ、というので思い出しました。
時々なのですが、我が家の息子が横断歩道を渡るとき、「白い部分を踏んではいけないのだ!!」と一人で言いながら、大股で歩いています。
そんな姿を眺めていると、そういえば私も OL の時に街中を歩く時にさえ、敷き詰められた歩道の四角いブロックの色を選んで歩いたり、そんなことをしてましたねえ。。。
よく考えると、そういう行為って「癒し」に繋がっていたんですね。
ふむふむ、とても納得いたしました。(笑)

< MM >

【 Re5:並べること】
横浜のONです。
MMさん、その節はお世話になりました。
私は保育園や小学校のイベントの手伝いをする事が多いのですが、遠足などで縁石やライン、歩道のカラータイルなどをたどりたがるのは、健常児でも良く見られます。
特に低学年の男の子には多いようです。
高学年になるとやらなくなるようですが、テレビドラマなんかを見ていると、若い男女がデートしている場面などで、どちらか一方が花壇の縁石に乗って、手をつないで歩くようなシーンを良く見かけますので、度が過ぎなければ、それほど不自然な行動ではないのかもしれませんが。

前回、書き忘れましたが、年少さんのとき、通園施設の担任からアドバイスを受けました。

並べるのが好きなら、それを発展的に利用すればいいとのこと、洗濯物の片付けを手伝わせたかどうかのこと。

今では上手に畳んで、正しく所定の引き出しに仕舞ってくれます。

いつも必ず手伝ってくれるというわけでもないのですが、一緒にやったときは半分くらいの時間で終わりますし、並べるのが好きではない(?)家内が片付けたときより、格段に綺麗に収納されています。

もちろん、そこまで至る道程では、手伝わないでくれた方が有り難いと思える日々も長くありました。

やはり、継続は力なり、ということでしょうか。

なんだか自慢話っぽくなってしまって済みません。

< ON >

【Re:並べること】

大分のTGです。

余談ですが昨年度末に県内のニュースで自閉症などのハンディを持つ人の就労の一例として老人ホームなどの施設のベッドメイキングなんかの仕事をしているのを見ました。

私などよりずっと丁寧にしているのを見てそういう道もあるなあと思いました。

そういう就労の場が多くなってくれば良いなあと思いつつ見ました。

並べることが好きだということを逆に特性として生かせるというのは良いなあと思いました。

< TG >

【Re:並べること】

HTです。

うちの子もハムちゃんやアンパンマンミュージアムの人形をたくさん整列させて、全校集会や運動会をやっていたりします。(徒競争では5人くらいの人形を「よーい、どん」それっ!と順番に前へ転がしていきます…乱暴な～!)

> 自閉症などのハンディを持つ人の就労の一例として

> 老人ホームなどの施設の

> ベッドメイキングなんかの仕事をしているのを見ました。

> 私などよりずっと丁寧にしているのを見て

> そういう道もあるなあと思いました。

年末にNHKのETV特集で障害者が『働く』ことについての特番をやっていました。

その中で障害者の上司は「自閉症の人は糊のつけ方や量が常に一定で速度も安定しているので、安心して任せられる。」とおっしゃっていました。

障害特性に合わせた人員配置をすると仕事の能率が上がるので、この人は何が得意で不得意かを常に把握をしておかなければならないそうです。

最初のうちは終わった後、一つ一つ検品していたそうですが、それでは真の自立とは言えないので、検品しなくてもすむような支援や体制作りを心がけて来られたそうです。

> 並べることが好きだということ

> 逆に特性として生かせるというのは良いなあと思いました。

S先生も「自閉症の人は最初の5分と8時間後の5分の作業効率に大差がないから、少しくらい遅くても作業能力は低いことになりますよね。」と講演会で言っていました。

うちの子はまだそこまでの理性を保てませんが、成長すればそういう風になってくれるのかな、と思いました。

特性を活かせる職業が見つかるといいですね～。

< HT >

【VBワークショップに参加して】

今日、東京で開かれた、VBワークショップに参加してきました。まずこのような機会を与えて下さった、VBコンサルグループの皆さんに感謝します。大変、勉強になりました。

印象に残ったことをかいつまんで、報告します。

まず講師のHさんが冒頭におっしゃったのは、「VBもABAの一つである」ということです。(おそらく上級のお子さんを除いて)「1対1のディスクリートトライアルは最も有効な方法(の一つ?)である」ともおっしゃっていました。

セラピストが子どもを教えるとき、まず最初にやるべきことは「ペアリング」だそうです。これはまずセラピストを好きになってもらう、ということ。そのために、最初は子どもに指示や要求を出さずに、どんどん強化子を与えます。

信頼が得られたら、徐々にテーブルに誘導するようにします。そして少しずつこちらの要求に答えさせるようにします。次に評価です。これはサンバーク&パティントンのABLLSをつかって言語行動のレパトリーをチェックしていきます。

次にマンド(要求言語)の重要性を話されました。マンドを言わせるときは、EO(動機)を作り出すことが大切です。例えば子どもがトランポリンに走り寄っていきこうとしたときに、ちょっと止めて(そのときは、飛びたいという気持ち(EO)が強いはずですから)、「ジャンプ」と言ってやり、まねさせます。

このときに「何したい?」とか聞いてはいけないそうです。いきなり「ジャンプ」とだけ言うべきだそうです。音声模倣が苦手な子で、一度「ジャンプ」といってやるだけでは子どもの「ジャンプ」という発声が引き出せない場合は、三回まで「ジャンプ」を繰り返します。三回目は、子どもが結局何も言わなくても、ジャンプさせてあげます。そして、ジャンプさせながら、もう一度「ジャンプ」と言ってやります。

そのようにして、EOと言葉をセットで聞かせることが、言葉を引き出す上で、とても大切だそうです。(ちなみに、EOの本来の意味は「確立操作」、つまり動機を高めたり、低めたりする操作のことであり、動機そのものではないはずなので、私はVBの人たちが、EOを「動機」の意味に使うのは違和感があります。しかし今はVBの言い方に従っておきます)

VBでは「ちょうだい」とか「もっと」といった、一般的な(いろんな時に使える)要求表現を最初に教えてはならない、と教えていて、私と考えが違うなあ、なぜだろう、と思っていたのですが、今日、それに関する説明もありました。

Hさんによると、一般的な表現は、特定のEOと結びつかないから、よくないのだそうです。例えば、クッキーがほしい、と思っているときに、子どもが「ちょうだい」という言葉、あるいは

は手話しか知らないと、台所に行って、「ちょうだい」と言うことになります。しかしお母さんは、子どもが何をほしいか分からないので、子どものEOを正確に満たすことが出来ません。すると、EOを言葉を引き出すために最大限に活用できないわけです。

ただ、この点は私には異論があります。まず言葉がない子に、いきなり「クッキー」とか「ジュース」といった個々の名詞を教えても、うまく使い分けることはむずかしいでしょう。そのため、何がほしいときでも「クッキー」と言ってしまう、ということが起ります。そうなったら、やはりEOを正確に満たしてあげることができないわけです。

また、私の経験では、子どもは「ちょうだい」が言えるようになると、例えばジュースがほしいときには、冷蔵庫を開けてジュースを手を伸ばしながら「ちょうだい」と言ったりします。このようにして、仕草+ちょうだい、で何がほしいかを表現できるので、親は子どものEOを満たしてやれることが多いと思います。

この点は、今日、質問することが出来ませんでした。

マンドを言わせるとき、例えばジュースがほしいとすると、最終的にジュースにたどり着く前に、「コップ」(コップをほしがる)、「開けて」(ふたをあけてほしい)、「ついで」(注いでほしい)、注いだ後で「ジュース」と、いろんなマンドを言わせるそうです。

ただ気をつけないと行けないのは、ジュースを飲ませるたびにいつもこれを要求すると、子どもはそれくらいなら、ジュースはもう要らない、と思ってしまうので、子どものフラストレーションを募らせないよう、いつもいつも言わせるのではなく、たまにはただあげすることも大切だそうです。

あと、デスクでの課題に関して、VRスケジュールのことを強調されていたのが印象的でした。

VRスケジュールというのは、変動比率強化スケジュールのことです。子どもを強化するとき、毎回強化する連続強化スケジュールと、ほうびを間引く間欠強化スケジュールがあります。

この間引く場合に、例えば5回に1回、必ず強化する、というように、定期的に強化することをFRスケジュール(定比率強化スケジュール)と言います。

それに対して、回数を厳密に固定せず、例えば平均して5回に1回強化する、と言うやり方を、VRスケジュール、と言うのです。平均5回に1回なら、VR5と言います。

ネズミなどの実験では、FRよりVRの方が、一生懸命、ネズミが頑張るレバーを押す、と言うことが確かめられています。例えば50回レバーを押さないとえさが出ない事がわかっている場合、えさがなかなかもらえないことがわかっている場合、回数がある程度たまるまでは、あまりやる気がでません。それに対して、平均50回だけ、いつえさが出てくるか分からない、と言う場合は、もしかしたら次にできるかもしれないので、ネズミもがんばれる、と言うわけです。

これが人間の場合にも当てはまる、というのは実験で確かめられているようで、ABAの教科書には必ず書いてあるの

ですが、私は素人には専門的すぎる、と思って、これまでほとんど紹介してきませんでした。

しかしHさんは、強化子を間引くときは、ちゃんと計算して、VR2からVR3, VR4, と徐々に間隔を延ばしていくように、と勧めていました。

そのとき、これは使えそうだな、と思ったのは、例えばVR2にしよと思ったら、1回~4回の間で強化するようにします。まず反応1回で強化、次は3回、次は2回、次は4回、といった感じです。すると大体平均して、2, 5回くらいになるでしょう。

Hさんは、何回ごとに強化子を与えたかを記録しておいて、セッションの終わりに割り算して、平均何回ごとに強化したかを確かめるように、とおっしゃっていました。

でも、私たち親にとって、それはちょっと面倒な気がします。その場合は、最初は毎回強化から始まって、まず1回か2回ごとに強化します。すると大体平均1, 5回ですよ。

次は1回か、2回か、3回ごとに強化します。するとVR2になります。次は1~4回ごとに強化します。すると大体VR2, 5になるはずですよ。

こういう風に、幅だけを決めておけば、あまり苦労せずに、VRが実行できるのではないかと、思いました。チャンスがあったら、一度試してみようと思います。FRにするよりも、子どもの反応率がいいそうですから。

< 藤坂 >

【VBワークショップ【お礼】】

VBワークショップに参加して頂いた皆様

昨日はお忙しい中、そして又遠方からお集まり頂きましてどうも有難うございました。

主催者の我々コンサルメンバーにとっても、コンサルタントのHさん、通訳の方にとっても全て初めての経験で至らぬ点が多々あり、申し訳ありませんでした。

藤坂さんには、一参加者として参加して頂いたのに、通訳の手助けや解説までして頂いて本当に助かりました。又、早速MLにコメントを頂きまして有難うございました。

参考までにアンケート結果をご連絡します。

アンケート結果(主要な項目)

有効回答数は35名です。

・ワークショップは有意義だったか?

とても有意義だった 71%

まあまあ 26%

余り有意義でなかった 3%

・説明は分かりやすかったか?

分かりやすかった 43%

まあまあ 66%

分かりにくかった 7%

・VBをもっと学んで見たいか?

YES 97%

何ともいえない 3%

・今後もワークショップの開催を希望しますか?

希望する 60%

内容によって希望する 40%

【アンケートの纏め】

有意義であり、VBをもっと学びたいという気持ちは高まったが、説明が分かりやすいとは言えなかった。その理由は、2点に絞られる。

通訳・・・通訳のスキルが低く、分かりにくかったという意見が大半でした。

進行・・・講義の途中で質問をさせすぎと言う意見もかなり多かったです。質問は後でまとめてやった方が良かったようです。

今後

(1)講義内容資料の提供

今回の講義内容のあらすじについて日本語で資料を作成し、ご許可頂ければつみきのVBの資料保存庫に提供させて頂き度いと思います。私がやるつもりなので、ひょっとしたら誤訳があるかも知れませんが、時間がかかるかもしれませんがご容赦下さい。英語の原文と日本語訳の両方を提供させて頂き度いと思います。

(2)来日コンサル

アンケート結果によるとかなり多くの方が興味を持っていただいたようです。

お金もかかりますし、準備もそこそこ手間がかかりますが、我々は費用対効果を感じています。

ワークショップだと参加者の最大公約数のニーズを満たすことが目的になりますが、

個別コンサルだとお子様を成長させるニーズのみに焦点があたります。

御興味のある方はENにDM下さい。詳しく解説します。

尚、準備については次回以降ある業者の方に委託できる可能性があり、この場合はかなり準備のストレスは軽減されます。

(3)今後のワークショップ

アンケートの結果からは、次回も開催して欲しいという声が多いようです。

HさんもVBを1日だけで(しかも通訳が入るので6時間やっても実質3時間以下)

明日から直ぐできるように全てを語るのとは不可能であり、できればテーマを絞って次回は開催したいと言っていました。今回の反省などを踏まえ、テーマを絞ってやればかなり充実した内容にできると思います。

ただ今回痛感したのは、この手のワークショップを親達だけで開催することの難しさです。

当然親が主催者なので無償でやっていますが、米国から呼ぶので、飛行機代、宿泊代、コンサルタント講義料、通訳料、その他かなりのコストがかかり、5,000円という金額に設定させて頂きました。これは決して安くありませんし、地方から来ていただいた方もいらっしゃる、特に地方の方は交通費も入れると相当のコストだったと思います。

そういった方々の期待にこたえられるだけの責任感がないと、こういったものは開催しては行けないと思いました。親だ

けだと来日準備、事前の打ち合わせ、資料準備など、生活をかなり犠牲にしなければとても万全な準備はできません。今回幸いにも、この手のワークショップの開催に次回以降協力しても良いとおっしゃってくれたNPOの方がいらっしゃいました。

本当に対応可能かどうかはこれから詳細お話ししますが、次回以降はプロの方に主催をお願いして、もっと質の高いワークショップにして貰えたらと思います。

<EN>

【Re:VBワークショップに参加して】

UCです

私も、このワークショップに参加しました。

初心者向けとのことだったのですが、なかなか中身の濃いものであったと思います。

ワークショップの内容についてのご報告ではなく、私が思ったことということで書かせて頂きます。

また、明らかな事実誤認がありましたらご指摘頂けると幸いです。

VBといっても、基本はABAです。ABAの中に、ロヴァース博士がされている方法やPRTがあるのと同様にいわゆるVBがあると認識しています。したがって、基になる考えは同じだけれど、アプローチの仕方に考え方の差があり、さらには、実際の行い方に相違があると思っています。

私は、一昨年この時期に、関東在住の会員の方宅を訪問させて頂き、VBについて教えて頂きました。

そして、「Teaching Language to Children with Autism」、「ABLLS」、「Teaching Verbal Behavior Video」をDRLから購入し、勉強を始めました。

VBに始めて接して、特に印象に残ったことは次の二点です。

1 NET*(Natural Environment Training)がかなり強調されている

「Teaching Language to Children with Autism」に計されている表13-8では、DTT(Discrete Trial Training)について、5段階に分けてDTTとNETの重きの置き方が以下のように書かれています。

第1段階 NET>DTT <=*** NETに重きを置く

第2段階 NET=DTT

第3段階 DTT>NET

第4段階 NET>DTT

第5段階 DTT>NET

つまり、特に初期段階ではNETがかなり強調されています。

*自然環境教授法(Natural Environment Training)。つまりなるべく日常の環境に近いセッティングで教える、ということ。例えば床で遊びながら、さりげなく適切な応答を促すなど。般化しやすいというメリットがある。(ABAミニ用語集から)

2 デスクで課題を行うに際しても、1回の試行毎に、例えば、動作模倣 -> 音声指示 -> 名前づけ -> 音声模倣のように様々な課題をミックスして出し、さらに、非常にテン

ポよく次から次にすすめられる

最初、この様子を見せていただいたときはそのテンポの速さに圧倒されました。

わが家でのVBの位置づけですが、完全にVBを取り入れることにはならず、ロヴァース式のDTTにVB的なセラピーを一部取り入れる形になりました。

自発的な発語が少なかったため、NETでのマンド訓練を一時期集中的に行いました。

妻と3人のセラピストさんが担当し、要求の言葉はかなり増えたと思います。

また、課題をミックスしてテンポよく出すVBのデスク(ITT*)も(形だけかもしれませんが)取り入れました。

これについて、わが家ではメンテナンス課題(マスターした課題)とあと少しで習得の課題少しとをミックスして行いました。(私の技術不足のため、新規課題は対象にしませんでした。)

実生活では様々な場面があり、すぐに反応することが必要な場合も多々あるので、素早く反応することが大切な要素であると思います。そのため、実生活に般化するためにもこのような形でのトレーニングが必要と思います。

また、課題が様々に変わるので、息子も私に注意を向けざるを得ず、子どもの注意を向けられるという意味でも、このような方法は有効との感触を得ています。

つまり、般化に向けての課題との位置づけで取り入れているということになります。

(これは、先ほども書いたように私の技術が不足していることに起因していると思います。しっかりと勉強すれば新規課題もこの方法でマスター出来ると思います。)

*ITT Intensive Training (集中訓練)。VBの用語で、ディスクリート・トライアル(DT)とほぼ同じ意味に使われている。DTTも同じ。(ABAミニ用語集から)

1年ほど、この形式で行っていましたが、認知面に重点を置いた時期があり、しばらくITTは中断していました。

そのようなときに、東京定例会の般化訓練で、Kさんと同じグループになりました。

「[tsumiki] [022834] 東京定例会の感想」で般化訓練の様子を紹介しましたが、このKさんの方法がVBの方法です。(私は以下のように書きました)

> メインとなる課題だけでなく、他の課題を多く行い、テンポ良く気持ちののらせて行っていることに感心しました。

> 注意を引きつけられ、課題から他のことに気をそらすこともあまりなくやっていました。

> また、マスターしている課題(音声指示、動作模倣なども入れていました)の間に習得すべき課題を挟んである形ですので、失敗の頻度が少なくできるのでストレスが少なくできると思いました。

ちょうど、課題の進め方を考えていた時期でもあり、Kさんと同じ般化訓練のグループになったのをきっかけに、再開しました。Kさん、ありがとうございました。

このように行ってきましたが、VBの方法は般化が容易であること、子どものEO(VBではモチベーションや欲求の意味

で使われる)を重視していること、言語行動に特化しておりコミュニケーションを伸ばすのに有効であること、これらが特徴であると思います。

一方、セラピスト側の技能がより求められること、(日本語での)情報が少ないことも感じました。特に日本語での情報が少ないことは、時間がない親にとっては非常に大きな問題であると思います。

(そのため、今回のようなワークショップが開かれることは情報が増えるという意味でも大変ありがたいことであると思います。)

また、わが家では、ロヴァース法ベースの療育にVBの要素を一部取り入れているわけですが、息子は特に混乱することなく課題をやっていますし、要求語は明らかにVB式のマンド訓練により増えました。

私としては、マンド訓練やデスクでVBを取り入れることによりよい結果を得られたと思います。(ベストであるかは分かりませんが、VBを一部取り入れたことはベターであったと思います。)

今後は、できる限りではありますが、ロヴァース法とVBとの両方に(その他の療育方法も可能であればこれに含めて)精通し、課題や子どもの発達段階にあわせて使うことができればよいなと思っています。

また、現状では、特に認知面の課題を多く行ってきた結果、その方面はかなり伸びてきましたが、言語面が弱いと感じています。当面は、会話に持つための課題を増やすつもりです。その中で、VBのイントラバーバルの方法を取り入れてすすめてゆきたいと思います。

つみきの会を通じて、このように様々な情報を得る機会があることに感謝しています。

最後に、VBの情報を得るにあたっては、多くの方々から助けをいただいていたことに感謝しています。

今回、それらの方々のうち何人かの人にお会い出来たことも嬉しかったです。(ゆっくりとお礼の言葉も言えずに、失礼しました。)

<UC>

【Re:VBワークショップに参加して】

先日の報告の続きです。

すでにUCさんが詳しくコメントして下さいましたが、もう一つ、印象的だったのは、デスクでの課題の時、ロバースの方法と違って、いろんな課題を同時に混ぜる、ということです。先日紹介したVRのスケジュールを使って、例えば1~4試行、途中でほめ言葉などの強化子を挟むことなく、「あたま」「これなに?」「こうして」「いくつ?」といった感じで、音声指示、物の名前、動作模倣、数、などいろんな種類の課題をまぜてテンポよく提示します。そして何試行か目に強化します。その中のどれか一つか二つが、いま教えているターゲット課題で、あとは復習課題です。

このように復習課題を多く混ぜることのメリットは、子どもにとって得意な課題が頻繁に挟まるので、やる気が維持されやすい、ということです。これは裏付けデータもあるようで、

私もそうだろうな、と思います。またテンポよくする利点は、Hさんによると、何でも流暢に反応できるようにするため、とのことでした。

ただこのやり方にはデメリットもあると思います。

まず何か新しいことを教えるとき、私は、教える側が非常にその課題に集中して、子どもの注意を指示や教材に引きつけつつ、タイミングよく指示を出し、プロンプトをゆっくり減らしながら、慎重にランダムローテーションしていくのがよいと思っています。

しかし、非常に速いペースで他の課題とテンポよく混ぜながら、同時に新しい課題にそのような細心の注意を払う、というのは至難の業です。かなりの熟練と能力がないと、肝心のターゲット課題から教える側、そして教わる側の集中力が削がれてしまうおそれがあるように思います。

あと、もう一つは、何試行かに1回しかターゲット課題をやらないので、効率が悪くなるのでは？(同じ事を教えるのに、DTTの何倍か、時間がかかるのでは?)ということです。

ただ、これはやってみないと分からないので、私もこの機会に一度、どこかで試してみようと思います。UCさんがおっしゃるように、折衷的に取り入れるのがいいのかもしれない。

例えばターゲット課題のDT(ディスクリートトライアル)の合間に、時折復習課題の指示を混ぜれば、DTの良さを失わないままで、ITTの利点をかなり取り入れることが出来るのではないかと、と思います。

とにかく、今回ひさしぶりにVBの勉強をさせて頂いて(以前に神戸で、Iさんの勉強会に参加させて頂きました)、非常に刺激されました。また自分のセラピーを振り返って、反省させられることも多かったです。

< 藤坂 >

【VBのお礼&講習会について】

藤坂さんへ

YMです。

VBワークショップのご報告ありがとうございました。

とても分かりやすく参考になりました。

私も参加したかったのですが、都合がつかせませんでした。

最近トークンボードを使用することが多いので(これはFRですよね)、

集中力が足りない課題にVRを試してみたいと思います。

それから、先日宇都宮講習会についてのDMを送りましたが、

届きましたでしょうか？

質問、確認事項について回答よろしくお願ひします。

お待ちしております。

< YM >

【Re:VBのお礼&講習会について】

YMさん、

すみません。DM届いています。今朝も、あの報告だけ書いて、急いで家を出たものですから。今晚にもメールいたします。

トークンボードのことですけど、YMさんは、チップやマグネットをためて、最後に与える強化子(バックアップ強化子)のことをおっしゃっているんですね。それなら確かに、普通は回数を固定して、例えば5つためたらごほうび、というようにしますから、FRですね。

しかしトークンの特徴は、チップやマグネットがそれ自体強化子となるところにあります。ですから、1回正解するごとにチップを上げたとなると、これは連続強化(FR1)となりますし、平均して3回、しかしその都度ばらばらな回数、正解するごとにチップを一個上げたとなると、VR3となります。必ず3回正解するごとにチップを1個あげたとなると、FR3となります。

このようにトークンボードはFRにもVRにも使えるのです。

ところで、先日のワークショップでHさんは、少なくとも最初のうちはトークンボードは使わない、とおっしゃっていました。これはVRにして褒美を間引く代わりに、時折与えるほうびは、なるべく効き目のあるものにする、という戦略をとっているからだと思います。

私の師匠のIU先生は、それとは反対に、初めてABAを学ぶお子さんでもトークンを使用します。お子さんの調子や課題の難易度を見ながら、臨機応変に、あるときは10個ためたらごほうび、あるときは3個でもごほうび、と変化させるように、と言っています。

ひとつの方法にこだわらず、いろいろ試してみるといいと思います。特にお子さんの集中力が足りない場合には、

逆に、いままく行っている方法があるのなら、新奇な方法にむやみに変更するべきではありません。子どもも、教える側も、混乱するだけに終わる可能性があるからです。

< 藤坂 >

【2月大阪定例会に参加して】

みなさん、こんばんは。

RMです。

本日、大阪定例会に参加させていただきました。

NMさんをはじめ他のスタッフの方々、I先生、ボランティアの方々、大変お世話になり、本当にありがとうございました。

私は久しぶりの参加だったのですが、皆さんといろいろお話できて、とてもうれしかったです。

やっぱり、仲間は良いですね…

阿倍野 SST チームのデモや、集団プログラム、とても良く工夫されていて、素晴らしかったです。

NMさんや他のスタッフの方々の実行力には、本当に感心してしまいました。

私も見習わないといけないな、と思いました(難しいですが…)。

I先生のご講演は、いつもながら、奥深くて最先端の内容をとても分かりやすくまとめて説明して下さり、本当に素晴らしかったと思います。

学校の先生にも、資料のコピーを渡すつもりです。

おかげ様で、今日はとても勉強になりました。

本当にありがとうございました！！

< RM >

【大阪2月定例会の報告】

大阪定例会スタッフのNM(宇治市)です。

！先生ありがとうございました。

参加された方、スタッフの皆さん、お疲れ様でした。

本日、大阪2月定例会(原則、年長以上)を行ないましたので、その結果について報告します。

本定例会は、SST(ソウシャルスキルトレーニング)子供たちに集団の中で人を意識し、人付き合いの仕方を学ばせる目的でプログラムを組みました。

阿倍野 SST チームによるデモンストレーションからスタートしました。

簡単な質問に答えるという課題から始めました。参加者を円形に椅子に座らせて、「黒い服を着ている人は立って。」「小学3年生は立って。」など自分を意識させる質問をしました。次に、今日のお昼ご飯に「おにぎりを食べた人立って。」「パンを食べて人立って。」など自分の行動を意識させる質問をしました。次に自己紹介(氏名、どこから来た、学校名と学年、好きな遊び)で自分を表現してもらいました。次に、一人ひとりにぬいぐるみを持たせ、そのぬいぐるみを観察した結果を発表してもらいました。くまのぶーさんは赤い服を着て、手には水色の風船を持ち、はちみつの入った袋を持っています。などを観察してもらいました。最後にインタビューごっこを行ないました。今日は、お昼ご飯と冬休みに行ったところを課題にしました。「僕は今日のお昼ご飯に を食べた。」「僕は冬休みに に行っただ。」「僕は冬休みに に行っただ。」と発表してもらいました。いずれの課題もリーダー(今日の場合は大学生)から発表を始め、席順はリーダー、自閉くん、セラピスト、自閉くんと交互に座って、モデリングを行ないながら課題を進めました。

デモが終了すると次に本日の参加者を3つのグループに分けて、デモの中の簡単な質問と自己紹介をしてもらいました。

次にボール遊びをプログラムに入れました。最初は、子供と大人が向かい合ってパスをするというものです。8名1組で1,2の3で一斉に相手にパスするというものです。掛け声がないときになパスというフレーズは許しません。ノーバウンド、ワンバウンド、転がしと3種類のパスをしました。これも、大人から開始しモデリングをしてから子供にさせました。フレーズをする子供もおりましたが、概ねうまくできたと思います。

次の課題は、約3メートル離れた位置にカラーコーンを置いて、子供にボールを蹴ってもらいカラーコーンに当てるというゲーム的なことを取り入れました。これは、最初ボールを見て、蹴った後はボールを追い、命中する瞬間に視線を傾けるゲーム感覚で行なえる訓練です。

これは私が1回のみでのモデリングをしましたが、モデリングを繰り返すればよかったと思い、反省しています。

次は、カラーコーンを直線に約2メートル間隔に置き、そのカラーコーンをジグザグに走り、折り返し後は直線に走って元

の位置に帰ってくるというのをしました。時間があれば、走力を養う訓練をしたかったです。というのも、うちの子は運動会ではちゃんと走りません。皆さんの中にも経験がおりの方がいらっしゃると思うのです

が、いつもピリでそれも大差です。色々観察したところ、うちの子の場合、走り方に欠陥があると思っています。足が上がっていないのです。すり足になっています。少し脱線しました。

このジグザグに走らせたのは、この次のプログラムを見込んでのことでした。これが終われば次は、同じくジグザグに走らせるのですが、今度はボールを蹴りながらやらせてもらおうと思っていましたが、参加者の大半の方から、それは難しいできへんと言われたこともあり諦めました。そのかわり、先ほどと同様に走らせ今度は、ボールをバトンとしりレーをしました。単に走るよりリレーの方が楽しそうでした。

最後のプログラムとして大阪教育委員会の！先生に対人関係の支援、ソーシャルスキルトレーニングと題して講演をしていただきました。

本日の！先生の資料は、つみき資料保管庫に保管される予定です。

楽しく有意義な定例会が行なえたと思っています。皆さん方も次回は是非参加して下さい。

SST といってもレベルの高い子供しかできないものではありません。

楽しい課題を与えることにより、いままで発見できなかった強化子も存在するかもしれません。「うちの子はボール遊びが好きだったんだ。気づかんかった。」と思われるかもしれませんよ。

次回は、5月14日(場所未定)です。

今回の参加をスタッフ一同お待ちしております。

< NM >

【Re: 大阪2月定例会の報告】

寝屋川のKNです。NMさん、スタッフの皆さん、ボランティアさん、！先生有難うございました。

長い時間でしたが、あっという間に時間が経ったという感じでした。

！先生の講義の中で、全体の目標と個人の目標設定を明確にすべきということでした。絶対できる目標をまず立てる。いきなり出来ないことを目標にしない。

例えば不登校のお子さんにいきなり登校させるという目標を立てない。

まずは7時時に起きる事を目標に立てるんだそうです。これなら絶対出来る、というところから目標を設定するとの事でした。そこからすこしづづスモールステップで、目標をあげていく、ということでした。

どうしても親はプロンプトするのに必死で、子供の評価が客観的に出来ません。そこで個人目標をリストにしておいて、プロンプトする人を親以外の人にもしてもらったらいいいということでした。すごく勉強になりました。

これを聞いたのはTDさんの質問からでした。

TDさん、良い質問してくださって有難うございました。
文章力がないので、間違っただけを書いていたら、どなたかフォローしてくださいね。

学校の先生が来てくれたら、良かったのになーと思いました。(お誘いしたんですけど、、、)

SSTとは関係ありませんが、連れ合いがダウンして、下の娘(一応健常児)も連れて行きました。同じ健常のお姉ちゃん達、ボランティアさんに一杯遊んでもらい楽しかったようです。すごく良かったです。有難うございました。

最後にNMさんの次から次へと出てくるアイデアはすばらしいなーと思います。ボール1つで色々な事が出来るんですね。佑真はニコニコ笑顔で参加していました。

次回は反省会にも参加させていただきたいと思っています。

< KN >

【大阪2月定例会】

昨日の大阪定例会に参加させていただきました～SKです。

NMさん、スタッフの皆様 お疲れさまでした。

この春いよいよ1年生になる長男と健常の弟二人共 とっても楽しく過ごすことができ、親も皆様のパワーを頂いてまた頑張ろうと前向きな気持ちになることが出来ました。有難うございました。

先生のお話はとても分かりやすく愛情こもった希望をもてるもので すっと心に入ってきて本当に勉強になりました。ありがとうございました。

ポジティブルールで 諦めないで スモールステップで等 初心に戻らなくてはと考えさせられることばかりでした。

目標は出来ることから始めて～とのお話も参考になりました。

いつも自信をもたすどころか ついつい感情的な厳しい叱咤 激励で自尊心も自信も粉々にしかねない自分の行動に反省しきりです。

次回は入学後で色々な問題を抱えての参加になるかと思いますが宜しくお願い致します。

追伸 NMさんの最後のメのお話～頑張り過ぎないで～も同じ障害児を持つ親にしか分からないであろう労いの言葉で なんだかジーンとしてしまいました。次回は例の催眠術！？にかかって自分の疲れている所を発見しようと思いたすので又やってくださいね～

< SK >

【2月大阪定例会(年長)に参加して】

京都市のMTと申します。

昨日の定例会に夫婦で参加させていただきました。

NMさん始めスタッフの皆様、ありがとうございました。

今回の様な年長組の企画は、とても魅力的で、また是非参加させていただきたいと思いたす。

SSTのことを、少しは主人も理解してくれたのでは？と思いたす。

また、先生の講演を聞かせていただいて、子どもへの課題のハードルを下げる必要を感じました。

とても勉強になりました。

ありがとうございました。

< MT >

【大阪定例会ありがとうございました】

京都市のMUです

NMさん、先生、スタッフの方々、ボランティアさん

昨日は、お疲れ様でした。ありがとうございます。

去年、阿倍野組のSST会を見学させて頂いて、うちも就学を控えてるので手探りながら京都でもSST会を行ってます NMさんのプログラムの中で、8人が一列に並びボールを頭の上で後ろに回すコーンを1メートル間隔で置き、その間をジグザグに行き帰りは、まっすぐ帰るといふボールを使った課題がありました

子供は、とても喜んでおりSSTは楽しい事が大事ななんやとつくづく感じました

講演を聞いて、少し課題が高すぎると反省してます

まずは、できる事を目標にですね

個別の課題を作り、他の親がプロンプトで付く、というのはなるほどです

子供達が慣れたら実践してみたいと思いたす

先生のお言葉の中で

自閉症のとしての社会性の困難は大きな課題

社会性の困難は就職の困難にもつながります

でも、どんな事でもスモールステップでやっていけば、出来るようになります

との、言葉がずっしりきました。

就学目前で、先のことが見えてませんでした。今回も、とても勉強になりました

先生がNNK教育の月曜・水曜 9時45～「みてハッスル きいてハッスル」(NNK教育番組で検索できます)の製作に携わっておられるそうです

高機能児向けかな？というHPですが、SSTをする課題が見つかりそうです

また、参加させて下さい。ありがとうございました

< MU >

【大阪定例会での意見】

大阪定例会スタッフのNMです。

いつも来ていただいてありがとうございます。Uさんのメッセージを送ります。

これはUさんの希望です。いつもお世話になっておりますので、本人の希望に応えることとしました。

阿倍野 SSTでも大変お世話になってます。

初めまして。

大阪定例会で阿倍野 SSTのデモに入っていたIUです。

小生は MLに入っていないので代理で、今回は送ってもらいます。

先生の講義は相変わらず良かったですね。

既に聴講された方には説明は不要ですが、まだの方はぜひ一度、講義を聴かれることをお勧めします(現在は先生のスーパービジョンを受けていると以前、お聞きました)。

さて、日曜日の感想ですが、我ながら大縄跳びに悔いが残りました…。

静止した縄をジャンプすることから始めて、ゆらゆら揺れる縄を飛ばす、回転する縄へ入ってゆくと、スモールステップで行うべきところをイキナリ、回転する縄へ入らせたのはルール違反だったと反省しています。

3 グループに分けての SST では、もっと十分なモデルを示して(間にスタッフやピアを入れて)回すべきでした。真ん中の円に私はいたのですが、連続して自閉症児でしたので無論巧くいきませんでした。& 答えられなくとも飛ばして、2 回目、3 回目と続けるうちに、その場の雰囲気・テンポにつられて(?) 答えられることは、阿倍野 SST では割にありましたので、答えるまで暫く待つのではなく、飛ばす方法も試みる価値はあったかもしれません…。

最初のデモは、イキナリ会話系から入るのではなく、運動系から入ったほうが我々スタッフも(無論子供も)リラックスできて良かったのではないかと感じました。

私は内心全然リラックスできてませんでしたから。

最後の NM さんによるリラクゼーション技法は、子供のことばかりでなく、親のケアも大切だとの視点を、具体的に示された点で画期的でした。後は簡単手軽で、怪しまれずに、あの場で受け入れてもらえ易い方法(技法)は他にないか?? を考えてゆきたいです。

とにかく沢山の定例会へ今まで参加してきましたが、新しい試みで感心致しました。

上記の他、細々した気づきや改善点は、阿倍野組 & 京都組には既に DM で知らせてありますので、この辺で小生の報告は終わりと致します…。敬具

<IU: 代理 NM >

【大阪定例会にお邪魔して】

つみきの会の皆様

大阪定例会でお世話になっております、と申します。

定例会に参加して、親御さんの子ども達の楽しそうな姿に感激し、私などで恐縮ですが、アドバイスさせていただいております。

特に、特別支援教育に関することや SST に関すること、中でもアセスメントから子どもの実態に合わせた個別指導計画の作成が私の専門分野です(ABA で作成します)。

IU 先生には個別の指導ケースを見ていただいております。

IS 先生には現在もスーパーバイズを受けております。

日本行動分析学会の会員でもあります。

昨年までは養護学校の教員で、大阪府のコーディネーターとして幼稚園から高校まで巡回させていただいております。(現在も休んで月に2~3回は行っています)

SST に関しましては、NHK「見てハッスル、聞いてハッスル」の番組委員に入れていただいております。

SST は高機能の子どもさんのもののみではありません。

ある程度の年齢になれば誰にでも必要です。

是非、取り入れてあげて下さい。

出勤前なので、まとまりのない文章でごめんなさい。

また発信させていただきます。

<I>

【第4回新潟定例会(報告)】

新潟定例会スタッフの SZ です。

藤坂さん、第4回新潟定例会、大変ありがとうございました。参加された会員の皆さん、たいへんお疲れさまでした。

簡単に、定例会の結果報告をさせていただきます。

今回の個別指導は、これまで ABA を全くやってないという小学校2年生の女の子が指導を受けました。

課題は、「 と 取って」という複数のものを取らせることや形容詞(大きい小さい)の弁別などでしたが、藤坂さんのシャボン玉などの強化子を使った巧みなセラピーに、その子も徐々に引き込まれ、集中していく姿を目の当たりにしました。

ABA は「早期集中」が特徴ということもあって、うちの子はもう小学生だからという理由で ABA をためらう方が多いのですが、小学生から初めて大丈夫ということを皆さん、納得されたようでした。

また、丸いマグネットを使ったトークン強化子の使い方を教えていただきました。

鉄製の細長いお菓子箱のフタに をマジックで5つ書いてという簡易なものでしたが、これなら、学校の教室でも使えそうだと思います。

また、小学校の担任の先生も参加されていて、実際に個別指導にも参加していただきました。他の会員さん方から「うらやましい」という声が聞かれました。

我が家の小学1年生君は、ひらがなの書き方を教わりました。

なぞり書きはできていたのですが、白紙では、「い」「こ」「つ」「し」くらいしか書けませんでした。藤坂さんから、なぞり書きではなく、動作模倣で書かせるテクニックを教わりました。つみき book に書いてある通りなのですが、読んででもなかなかコツがつかめず、なぞり書きに頼ってしまっていたことを反省しました。

また、目線が手元から、すぐに離れてしまうので、模倣したら即時に強化するよう指摘いただき、改めて、強化の大切さ、しかもそのタイミングの重要性を再認識しました。

そのほかに、ご兄弟でのカルタ取りも行われ、藤坂さんも参加されて、わきあいあいのセラピーも行われました。うちにも、あんなお兄ちゃんがいて面倒を見てくれたらいいなあと思ったのは、我が家だけではなかったと思います。

個別指導のあと、4回に亘って行われた、親講習会の締めくくりとして「EIBI (早期集中行動介入)の進め方~ミーブックから~」と題して、プログラムの進め方について講義が行われました。(ミーブックの改訂版の翻訳版がまもなく発行される予定というお話もありましたが、本当に発行されるのでしょうか。皆さん、大変な期待してしまいました。)

そのあと、親会員だけの交流会が行われ、最後は、隠れた新潟名物、イタリアン(太めの麺を、しょうゆ味でモヤシとキ

ャベツを入れて炒め、ミートソースをかけて、さらにショウガを乗せた奇怪な食べ物)を食べて終了しました。藤坂さんから「変わってるがおいしい」という評価をいただきました。

< SZ >

【第4回新潟定例会(個別指導報告)】

MRです。

藤坂さん、新潟定例会スタッフの皆様

大変お世話になり、ありがとうございました。

思えば1年前、第1回新潟交流会で、藤坂マジックに魅せられたことが始まりです。

机の上でのフォーマルセラピーの経験ゼロだった私を今年度の4回の定例会が成長させてくれました。

つみき BOOK もよく読まずひとりで暴走してしまうこともしばしば…

つい、イライラして子供を叱ってしまったりどうしてこの子はできないんだろうと、投げやりになったりと

でも、できないのは子供のせいではなく私のやり方が間違っていた、わたしが悪かったのだと気づき じゃあ、どうすればよいのだろうと考え ます、藤坂さんがしていらっしゃるように子供の表情をよく見ようと思いました。

藤坂さんが個別指導のときに子供たちを見つめる視線がとても印象的です。

だからこそ、間違えた時や無視との表情の差がすごいです。変な意味ではなく、無の表情というのがはっきり伝わります。この1年間で、子供の成長をととても実感できます。

まだまだ未熟者の私ですがこれからも勉強していきますのでどうぞよろしく願いいたします。

さて、個別指導ですが兄弟でカルタ取りをしました。

3回目の今回も、子供は始終にこにこ、のりのりで楽しくできました。

ただ、お兄ちゃんが初めてのことで緊張して固まってしまい思うようにカルタが取れなくて、それがおかしくて笑ってしまいました。

あとからお兄ちゃんに聞くと「あんなにたくさんの方が真剣に俺のこと見てたから」と言っていました。(おいおい)

また、「弟みたいな子供がいるんだなあ。弟もがんばっているけど、みんなもがんばってるんだなあって思った」と言っていました。(お～い。母もがんばってるぞ～。)

SZさん

> そのほかに、ご兄弟でのカルタ取りも行われ、藤坂さんも参加されて、わきあいあいのセラピーも行われました。うちにも、あんなお兄ちゃんがいると面倒を見てくれたらいいなあと思ったのは、我が家だけではなかったと思います。

ありがとうございます。

いいことばかりではありませんが、お兄ちゃんがいるからこそできることってたくさんありますよね。

お兄ちゃんにも「今日は、ありがとうね」(むぎゅ)をいっぱいしときました。

ここで兄弟の笑える会話をひとつ

兄弟で戦いごっこをしていて

兄 「俺には、最強の盾(たて)がある！」

弟 「おれには、最強のよこがある！」

兄 「 ??? 」

母 (爆笑)

< MR >

【神戸定例会報告(平成18年2月)】

つみきの会 神戸定例会報告(平成18年2月)

2月18日日曜日午後 1 時 30 分から神戸クリスタルタワー(ＪＲ神戸駅前)にて、つみきの会神戸定例会が開催されました。

参加は26家族、託児20数名 大人 40名余りの参加でした。

今回は、2回目のお招きでU氏に「学校におけるABAの実践 ～学校での行動マネジメント～」をテーマに講義していただきました。主に就学期にさしかかったお子さんをお持ちの親御さん、および教育関係の方向けのテーマでした。もちろん今後、就学を迎えるお子さんの親にも参考になりました。アメリカでの経験からのIEP(個別教育計画)についての親の心構えや担任との良好な関係保持の大切さは、IEPなるものが正式には存在しない日本においても日頃の心掛けとして大切な事柄でした。そして、公の援助の乏しい日本において親がまず第一に取り組むべきことは何か、との質問に対して、「シャドウだ」と言われ、親がその必要性から学校に求めるべきであることを強調されておられました。(1時間40分)

今回はボランティアさんにお任せして子供たちへのおやつタイムをとり、並行して大人の休憩時間をとり次のプログラムにうつりました。

個別指導(DTT)、今回は1組で4歳の男のお子さんとお母さんでした。「数をかぞえる」の応用編に取り組まれていて、お母さん、藤坂代表、ゲストの上村さんによる指導を受けられました。見ている方もそれぞれのレベルで得るところがありました。

つぎに4グループ般化訓練をおこないました。それぞれに趣向を凝らした教材やテーマでDTTに取り組まれておられました。

本日のプログラムはこれで終了、ほぼ予定通りの16時45分でした。

今回も参加の皆様とボランティアさんのご協力であと片付けをすばやくすませることが出来ました。

ご協力いただきました託児ボランティアの皆様、まことに有難うございました。おかげで今回も無事定例会を催すことが出来ました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

2006・2・19

神戸定例会スタッフ

追伸)

3月は神戸定例会はお休み。明石年長者定例会が3月19日(日曜日)明石にて開かれます。

次回の神戸定例会は4月9日(日曜日) 午後1時半(受付開始1時10分) 神戸クリスタルタワー4階創作工房A,B

正式のご案内はHP, つみきMLにてご確認ください。

お知らせ

< 神戸定例会スタッフ >

【神戸定例会の感想】

昨日、デモをやらせて頂いたDGです。

藤坂さんをはじめ、スタッフの皆さん、ボランティアの方、そしてUさんどうもお疲れさまでした。

出産のため定例会への参加を一時中断しており、今回の定例会は5ヶ月ぶりでした。

デモでした課題は2つ

1・カードをみせてその特徴を言わせる(うさぎは耳が長い)
2・いくつかのつみきをにおいて(例えば赤のつみき4つと青のつみき2つ頂戴)指示をさく。

ラッキーにも藤坂さん、Uさん 2人から指導をして頂きました。お二人のセラピーが私と明らかに違ったのは、藤坂さんは頻繁にプロンプトを出す、子どもが間違わないようにどんどんプロンプトを出してました。そしてUさんは正解したときの大きなリアクションです。子どもが正解すると本当に大きな声で「すごいなあ〜」って誉めてました。あんな調子で誉められると次も正解してやろうかななんて気持ちになりますよね。

こうやって皆さんの前でやらせていただくと本当に色々学ぶことがあります。以前デモをやらせて頂いたとき、藤坂さんから、強化の仕方が弱い、強化子を出すのをしぶりすぎと指摘を受けました。今回はプロンプトを頻繁に出し子どもにも正解を与えてやる、そして正解したときはとびきりに誉めてやるということを学びました。基本中の基本のことなのに、いつの間にか勝手に自分のスタイルを作り上げてしまい、初心忘れべからずです。まだまだ学ぶこと多いにあります。

また前回参加したときのKを覚えていてくれていた方がいて、今回のデモの姿をみてとても成長したと言ってくれました。

こうやって第三者のかたから言われると今まで地道に頑張ってきたことが報われるというか、私へのとても大きな強化子となっています。

またはんか訓練の時に、「Kくんはよく視線があっているよ」といっていただき、これまた大きな強化子を頂きました。

今回の定例会でも思いつかなかったような課題を見せていただいたり、色々と情報を頂いたりとても充実したものでした。

今後もまた定例会で強化子を私が頂けるように頑張っていこうと思います。そしてKの成長をみてもらえればと思います。

< DG >

【お知らせ :神戸定例会】

日時 4月9日(日) 13:30-16:30

場所 神戸クリスタルタワー 4階創作工房AB

【お知らせ :明石年長組定例会】

日時 2006年3月19日(日) 13:30 ~ 16:40

会場 明石市生涯学習センター学習室1

(アスピア明石北館7階)

対象 5歳以上

内容

講義 SSTについて(ソーシャルスキルトレーニングについて)【仮題】

講師 大阪府教育委員会 伊丹昌一先生

(前回の大阪定例会と同じ内容です)

集団SST(ソーシャルスキルトレーニング)

参加費 1家族1500円

申込 つみきの会事務局(gate@tsumiki.org

FAX 078-928-6080)あてに、メールまたはファックスで、

代表者氏名、

参加人数(大人 人、子ども 人)

お住まい(市町村まで)

託児希望の有無

(会場で静かに過ごせる方以外は原則託児して頂きます)

託児の場合、子ども氏名、年齢、性別、障害名(もしあれば)、トイレの注意、好きな遊び、コミュニケーションの度合い、その他の注意事項を教えてください。

託児は定員に達し次第、締め切ります。大人のみ参加であれば、前日まで受付けています。

【お知らせ :3月仙台定例会】

日時 2006年3月21日(火・祝日) 13:30 ~ 16:30

(13:00開場、受付開始)

会場 仙台市青年文化センター 会議室1,3

(仙台市営地下鉄 旭ヶ丘駅下車徒歩3分)

定員 35人(託児は定員15名)

参加費 1500円

内容 未定

申込み方法

参加・見学申込みの方は必要事項を明記して下記申込みアドレスまでメールでお申込みください。

【 必要事項 】

・住所

・氏名

・参加する大人、子供の人数

・子供の年齢

・会員/非会員の明記

・託児希望の場合は「託児希望」と明記してください。
託児希望の場合、お子さんのお名前・年齢も明記してください。

(託児の定員は15名です。託児が定員になった場合、定例会会場にお子さんをお連れになっても構いませんが親御さんに見ていただくようになります。ご了承ください。)

また、下記プロフィールシートを作成して、当日忘れずにお持ちください。

プロフィールシート

お子さんの氏名(よみがな)

年齢

性別

障害名(もしあれば)

トイレの注意事項(どの程度介助が必要か、具体的に)

好きな遊び

さけて欲しい遊び(キライな遊び、苦手なこと)

こだわりやくせ、予想される困った事

その他の注意事項(ボランティアさんに気をつけて欲しい事)

申込み期限 2006年3月14日

(定員になり次第、締め切らせていただきます)

申込みアドレス tohoku-seminar@sumiki.org

都合によりお断りをする場合を除き、メールの返信はいたしません。

【お知らせ :第3回北陸交流会】

日時 H18年3月12日(日) 13:00 ~ 17:00

会場 金沢市教育プラザ富樫3号館 2階

活動交流室 A・B・C

駐車場 150台あり。アクセスは下記にてご確認ください。

<http://www.togashi.ed.jp/>

参加費 会員一家族 1000円 非会員 1500円

会員で希望される方のみ別途500円で託児します。

内容

内容については今後、北陸 ML の方で希望を伺いながら決めていきたいと思っております。

申し込み事項

お申し込みをされる方は、下記の事項を申し込みアドレスにDMにてお送りください。

(1)氏名

(2)住所(市町村名まで)

(3)会員・非会員の別

(4)職業等(自閉症児の親は「親」とお書きください。)

(5)連絡先(緊急時の連絡先)

~ 以下は親のみお書きください。

(6)参加人数(大人人数、子供人数)

(7)お子さんの生年月と性別

(8)ABA歴と最近の課題(例、音声模倣等)

(9)託児希望の有無

(10)個別指導(実習)参加希望の有無

申込先アドレス

HTonly1@hotmail.com

注意事項

会員同士の交流・勉強が目的ですので、非会員は原則として会員を通じてのお申し込みとさせていただきます。

【お知らせ :名古屋支部定例会】

日時 平成18年3月26日(日) 13:00 ~ 17:00

会場 ウィルあいち セミナールーム2

託児室「こどものへや」

定員 定員の定めなし。

参加費

1000円。託児1名につき別途500円いただきます。

内容

(1)藤坂代表の講義 「強化とプロンプト」

(2)個別指導(希望者のみ、定員4組×15分)

初めての方、大歓迎です。

(3)般化訓練(初参加以外の方、原則全員参加です)

(4)集団プログラム

広いスペースで体を動かしながら、周りの動作を模倣したり名前を呼ばれた時に返事をしたりといった練習を楽しい雰囲気で行います。

託児について

託児室「こどものへや」にて託児を致します。

場所は、セミナールームのすぐ隣です。

おもちゃ、本、トイレもあります。

現在、13名のボランティアさんをお願いしています。

託児室は、原則未就学児のみの利用となります。

参加条件

会員限定ではありません。

但し、非会員の方は、会員の「紹介」と言う形でお申し込み下さい。

申し込み方法

事前に必ず申し込みが必要です。

必要事項を明記して、下記アドレスまでメールでお申込みください。(件名は「名古屋支部定例会申込み」としてください)

【必要事項】

代表者氏名: E-mail アドレス:

住所(県・市まで):

参加人数:大人 人、子供 人

子供の年齢: 歳 ヶ月、 歳 ヶ月

ABA歴: 年 ヶ月

個別指導希望:有無 般化訓練:可否

習得中の課題:(動作模倣、マッチングなどなど...)

【託児を希望される方は、以下に必要事項をお書き下さい】

託児者といいましてもボランティアさんです。

